

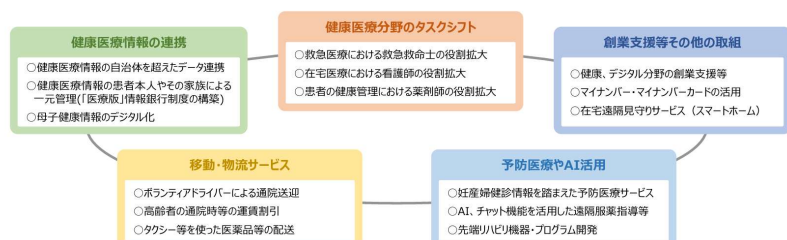
TOPICS
1オンライン診療を用いたWell-Care Visitsの推進と
今後の展開～子どもたちの未来を育む取組～

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では大学の内から外なる場へWell-being社会を実現する取り組みを進めています。今回は、「小児心身医療科のオンライン診療とその展開」についてご紹介します。

1. オンライン診療

■ デジタル田園健康特区

2022（R4）年に吉備中央町が指定された



出典：2022年3月10日国家戦略特別区域諮問会議資料



出典：Map-It マップサイト(c)

D to P with N

- ・Doctor（医師）
- ・Patient（患者）
- ・Nurse（看護師）

個別ブースや診察室など、守秘に配慮して診療するとともに、スタッフが常駐する施設を利用することで、緊急時に連絡できる体制を構築している

■ 小児心身医療科のオンライン診療

2024（R6）年6月から 吉備中央町下加茂診療所

2025（R7）年10月から 瀬戸内市民病院

小児特定疾患カウンセリング料は、R6年度の診療報酬改定で、期間が2年から4年に延長した。さらに、オンライン診療が認められた。

令和2年度診療報酬改定 Ⅱ-7-3 地域医療・地域生活支援の充実と高齢者の医療・介護の連携

発達障害に対する支援の充実

小児特定疾患カウンセリング料の見直し

項目	発症障害等、児童思春期の精神疾患の支援を充実する観点から、小児特定疾患カウンセリング料について公認心理師が実施する場合の評価を新設する。	発達障害
【小児特定疾患カウンセリング料】		【小児特定疾患カウンセリング料】
イ 月の1回目	500点	イ 発症による場合
ロ 月の2回目	400点	ロ 1 月の1回目
		ロ 2 月の2回目
		ロ 公認心理師による場合

【公認心理師による場合の算定要件】

- 一連のカウンセリングの期間が1年以上となる。
- 医師の指示の下、公認心理師が当該医師による治療計画に基づいて療養上必要なカウンセリングを20分以上行った場合に算定できる。
- 継続的にカウンセリングを行う必要があると認められる場合においても、3月に1回程度、医師がカウンセリングを行うものとする。

被虐待児等の診療機会を確保する観点から、小児特定疾患カウンセリング料について、対象に被虐待児を含むことを明確化する。

症例 中学生（小学生のころから不登校）
患児：感覚過敏でバスの振動に耐えられない、1日の移動が疲れる、人が多い場所が苦手であるなど保護者：バス移動のため受診が1日がかりになる。
定時勤務のため、休みを取りにくいなど
⇒オンライン診療で2年ぶりに本人と面接を行うことができた本人が参加できない場合も家族と面談を続けた約1年オンライン診療継続した後、受診が可能になった



■ 小児を取り巻く変化

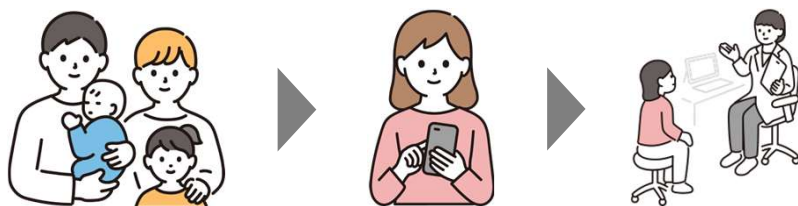
小児医療の現場では疾病構造が大きく変化し、心理社会的な問題を背景とした相談が増えています。例えば、令和5年時点で児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人で、その初期には身体の不調を訴えることも多く、小児科での対応が必要となります。医学の進歩により慢性疾患を抱えながら成長する子どもも増えており、医療や福祉、教育など何らかの支援を必要とするchildren with special health care needs (CSHCN)の割合は約15～20%と推測されます。

■ オンライン診療の可能性

心理社会的な問題を抱えた子どもとその家族の治療には、時間がかかることもしばしばです。また、専門外来が少なく、待機期間が長いという問題もあり、必要な治療を提供することが難しいという現状がありました。この問題を解決するため、オンライン診療の利用が推進されています。小児心身医療科では、令和6年からオンライン診療を開始しています。相談中に情緒不安定になった場合にサポートできるよう、医療機関内で面接を実施する体制を構築しています。

2. オンライン問診票とWell-Care Visits

- ①病院へ保護者と来院 ②医師の受診前に病院の
タブレット端末等で回答 ③医師の健診(診察)
を受ける



①慢性疾患児のWell-being促進

岡山大学病院に通院中のお子さんへの定期的相談を行い、QOLの維持、改善を図る

慢性疾患をかかえるお子さんのWell-beingを目指した取り組み(Well-Care Visits)の有効性
(臨2509-004) JRCT1060250032

②オンライン診療の充実と利用拡大

学校健診への参加が難しいお子さんに対して、問診票システムを利用することで支援の選択肢を拡大する

注：こども家庭科学研究費補助金 身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究「こどもたちのためのWell-Care Visits マニュアル」より問診票を許可を得て引用

注：Children with special health care needs (CSHCN)は約15~20%と推測される。また、令和5年時点で児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人である。

◆Well-Care Visitsとは

WHOは令和6年にWell-Care Visits(定期的な健康診査や親子への指導)に関するガイダンスを発表しています。定期的な健康の評価は子どものQOLを改善し、Well-beingを促進します。小児心身医療科では、我が国でこれを推進するため「こどもたちのためのWell-Care Visitsマニュアル」作成に参加しました(注)。これは、バイオサイコソーシャルな側面から定期的な診察と保健指導を提供する医療者向けのマニュアルです。これをもとにオンライン問診票システムを構築し、その実用化を目指しています。(注：こども家庭科学研究班「身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」班)

■今後の展開

オンライン問診票システムには、Well-Care Visits関連以外にも心身症や摂食障害などの診療に役立つ内容を搭載しています。今後これを利用して、広く診療を行うことを計画しています。

①慢性疾患のお子さんのWell-beingを促進するため、定期的な健康相談を開始しています。

②学校健診を利用できない不登校や引きこもりのお子さんに対して利用が可能です。

現在、岡山大学病院での利用だけでなく、岡山県新見市内の「思春期こどものこころの相談」でも活用されています。

①は前方視的に18歳まで経過を見守る長期的な介入となります。よってその効果はすぐに明らかになりません。しかし、だからこそ息長く継続したいと考えています。

○那須保友学長のコメント

少子化や社会環境の変化が進む中、子どもたち一人ひとりが健やかに成長し、その可能性を最大限に発揮できる社会の実現は、社会全体で取り組むべき重要な課題です。Well-Care Visitsは、子どもと家族に早期から寄り添い、健康や発達、生活環境に関する課題を把握し、必要な支援へとつなげる先進的な取り組みです。岡山大学は、医療系をはじめとする多様な知を結集し、地域との共創を通じて、子どものWell-being向上を支える取り組みを推進してまいります。



TOPICS
2

「RYOBI ARENAネーミングライツオープニングセレモニー」を開催



両備ホールディングス株式会社と本学のネーミングライツ・パートナー契約締結を記念し、「RYOBI ARENAネーミングライツオープニングセレモニー」を開催しました。本学のネーミングライツは、施設等に愛称を付与することで施設の魅力向上を図るとともに、本学および地域の活性化、企業との連携機会の拡大を目的としています。津島キャンパスの第二体育館には新たな愛称「両備アリーナ」が付されました。今後は愛称の浸透を図り、学生の成長と地域交流の拠点として施設の発展を目指し、産学共創・地域共創の推進につなげます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15446.html

TOPICS
3乾燥ストレスによるドライアイに新たな治療可能性
～レキシノイド化合物NEt-3IBが炎症を抑え、眼表面の恒常性を回復～

米国ベイラー医科大学と本学の共同研究チームは、本学で創出されたレキシノイド化合物「NEt-3IB」が、ドライアイモデルにおいて炎症を抑制し、角膜バリア機能や結膜ゴブレット細胞の維持に寄与することを明らかにしました。本研究成果は、加齢や環境ストレス、栄養不足によって損なわれ得る体内の再生・抗炎症機構を活用した、ドライアイに対する新たな治療戦略を示すものであり、既存治療のステロイドとは異なる作用機序を持つ新たな治療戦略として期待されます。本学は、今後も最重点研究分野であるヘルスケア領域の研究を強化推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1560.html

TOPICS
4

メタバースが築く、全国の小児・AYA世代患者の「治療の先の未来」～メタバース空間で、天王寺動物園の現役飼育員による特別解説ツアーを開催～



岡山大学病院、近鉄不動産株式会社、天王寺動物園、クラスター株式会社の四者は、長期療養を必要とする小児・AYA世代のがん患者を対象に、メタバース空間上で現役飼育員による「バーチャル天王寺動物園ツアー」を開催しました。全国30以上の拠点病院や連携施設から参加でき、動物の生態を学びながら、メタバース空間内で、場所を問わない自由な交流を楽しむことができます。この企画は治療後のリアルな来園を目標とする「希望の架け橋」として、病気と闘う子どもたちの治療への意欲とWell-beingの向上に寄与します。引き続き、J-PEAKSも活用しながら、Well-being社会の実現に向けて、挑戦を続けます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1561.html

TOPICS
5

微生物のストレス応答を利用した抗ウイルス物質の増産機構を解明

本学の研究グループは、抗ウイルス・抗寄生虫作用を持つ物質「シネフンギン」の生産が、熱や酸によるストレスで大きく向上する条件を確立するとともに、抗ウイルス剤の増産を支える遺伝子群の機能分担を初めて明らかにしました。また、類似遺伝子を構成する分子シャペロンの発現制御を経時的に比較・定量できる新たなRT-qPCR法を開発し、類似遺伝子が異なる役割を持って協調的に機能している可能性を示しました。本学は、今後も、地域中核・特色ある研究大学として、Well-being社会の実現に向けた研究開発を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1563.html

TOPICS
6

選択的にカドミウム集積を低下させる仕組みを発見！

本学高等先鋭研究院のひとつである資源植物科学研究所の馬建鋒卓越教授らの共同研究グループは、ゲノム編集技術を用いてイネの遺伝子に特定の変異を導入し、収量や必須元素の蓄積にほとんど影響を与えることなく、種子へのカドミウム蓄積を大幅に減少させることに成功しました。カドミウム(Cd)は、発がん性を有する重金属であり、イタイイタイ病の原因物質としても知られています。主食である米は我々にとって主要なカドミウム摂取源であるため、土壌から種子へのカドミウム移行を制限することは、健康上の極めて重要な課題です。植物・光エネルギー開発拠点の先鋭研究者の一人である、馬卓越教授らの研究活動に、引き続き、ご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1564.html

TOPICS
7

文部科学省「令和8年度『地域構想推進プラットフォーム』構築等推進事業」に採択～ユース参画で創る地域未来・産学官金言連携による「おかやま地域未来共創プラットフォーム」の完全自走化モデル構築～

本学は、文部科学省の令和8年度「地域構想推進プラットフォーム」構築等推進事業に採択されました(事業期間：令和8～10年度)。

本事業は、地域が抱える多様な課題に対し、産学官金言が連携し、地域構想を具体化するためのプラットフォーム構築を支援するものです。本学は、高校生から大学生、若手社会人までを「ユース参画」の主体として位置づけ、岡山県の地域課題解決とイノベーション創出を加速させる「おかやま地域未来共創プラットフォーム」の完全自走化モデル構築。新法人「OLIVE(Organization for Local Innovation and Visionary Ecosystems in Okayama)」を中核とした実践的なアクションタンクを創設します。岡山から新たな価値を生み出し、地域社会の変革をリードする取り組みにご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15558.html



TOPICS

8

AI時代の未来を、Well-beingの視点から考える ～J-PEAKS公開シンポジウム「AI時代をどう生き、未来をどう創るか」を開催～

本学と「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)」は、J-PEAKS公開シンポジウム「AI時代をどう生き、未来をどう創るか」を開催しました。生成AIをはじめとするデジタル技術が進展する中、人間社会が目指すべきWell-beingについて産学官の視点から議論し、人材育成や地域社会、大学の役割について意見を交わしました。本学は、今後も、AIやデータを人と社会の可能性を広げる力として活用しながら、地域と地球の未来を共創する研究・教育・社会共創を一層推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15453.html

TOPICS

9

地域中核・特色ある研究大学の取り組み～ヘリウムコンソーシアム構築に向けたヘリウムリサイクルワークショップを開催、約200人が参加～

本学は、「ヘリウムリサイクルワークショップ」を開催し、全国からオンラインを含め約200人が参加しました。価格高騰や供給不安が深刻化するヘリウムについて、先進的なリサイクルや使用済設備からの回収事例を共有し、安定供給に向けた課題や解決策を議論しました。また、ヘリウムリサイクルに関する連携強化などを目的としたヘリウムコンソーシアム構築に向けた取り組みも紹介されました。本学は、今後も、参画機関と協力し、我が国の研究力向上・イノベーション創出強化、そして経済安全保障の枠組みにおける重要な取り組みへの挑戦を続けていきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15464.html

TOPICS

10

研究開発マネジメント人材の育成と運用にかかる研修生のマッチングのための意見交換を千葉大学と実施



本学は、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」における研修生の受け入れに向けて、千葉大学と意見交換を実施しました。研修メニューである研究IRや新たな研究拠点組織の分析・組成、プロジェクトマネジメント研修等について協議し、研究開発マネジメント人材の育成と運用の高度化に向けた連携を強化しました。本学は、今後も、J-PEAKSも活用しながら、様々なステークホルダーとの連携を強化し、研究開発マネジメント人材の育成と運用の高度化を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15496.html

TOPICS

11

「岡山大学卓越教授称号付与式」を開催 ～シニア・ミドル研究者支援パッケージの一環として、優れた研究業績を持つ教授4人に称号を付与～

本学は、「岡山大学卓越教授称号付与式」を開催し、新設した「岡山大学栄誉教授・卓越教授制度」に基づき、優れた研究業績を持つ教授4人に卓越教授の称号を付与しました。本制度は、若手研究者支援に加え、ミドル・シニア層の研究者が長期的なビジョンを持って研究活動に取り組める環境を整備するものです。

本学は、今後も、J-PEAKSを活用しながら若手研究者に留まらず、ミドル・シニア層を含む全世代研究者を含めた長期的視点での研究支援を推進します。引き続き、開かれた地域中核・特色ある研究大学：岡山大学と卓越教授らの取り組みにご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15472.html

TOPICS

12

信州大学と「J-PEAKS連携ロボラボ」を共同設置 ～ロボットによる実験自動化で、革新材料開発の効率化を加速～

本学と信州大学のJ-PEAKS大学は、J-PEAKSの取り組みの一環として、ロボット技術を活用した研究自動化のための共同研究ラボ「J-PEAKS連携ロボラボ」を本学津島キャンパスに設置しました。J-PEAKSの事業を通じ、信州大学と本学では、研究者がクロス・アポイントメント契約により共同研究を推進しており、本ラボの設置により、信州大学が推進しているロボットを用いた研究自動化システムの技術やノウハウを本学に導入することで、研究の自動化を推進します。研究者の人手による負担を大幅に軽減し、実験データの蓄積や分析の効率化を図ることで、従来の研究スタイルを刷新し、持続可能な社会の実現に向けた革新材料の開発を加速させることが、今回の取り組みの大きな目的です。引き続き、両大学の連携をさらに深め、持続可能な社会の実現に貢献する革新的な材料開発を積極的に推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15476.html

TOPICS
13TCカレッジ医工系コース上級カリキュラム
「令和8年度医工講究」～技術職員の高度専門人材への
取り組みについて～

本学総合技術部は、TCカレッジ医工系コース上級カリキュラム「令和8年度医工講究」を開催し、学内外の技術職員が研究支援や共通機器管理、法医学分野での業務紹介などの専門的な取り組みについて発表・討論を行いました。本学は、全国初となる「名誉技監」の称号を授与する制度の導入など、技術職員の高度専門人材化を推進しています。本学では、全学の技術職員の連携を深めるとともに、多様な研修プログラムを通して技術職員のスキルアップを図ることにより、研究・教育・臨床活動などのパートナーとして取り組みの強化を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15471.html

TOPICS
14

日本学術振興会 特別研究員-DC フレンドシップミーティング2026にてJ-PEAKSブースを出展



本学は、日本学術振興会主催「特別研究員-DC フレンドシップミーティング2026」にて、J-PEAKS採択大学10校とともにJ-PEAKSブースを出展しました。本学のブースには数多くの特別研究員らが訪れ、本学の若手研究者支援パッケージや複線型人事制度、研究基盤共用システム(CFPOU)など、若手研究者に向けた支援策や多様なキャリアパスについて紹介しました。参加者からはキャリアを考えるよい機会となったとの声が寄せられ、次代を担う若手研究者に本学の取り組みを伝えるだけでなく、研究者としてのキャリアパスを考える機会にもなりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15442.html

TOPICS
15「第10回大学トップマネジメント研修エクステンション
～各大学の事例から学ぶ～」を岡山大学で開催

TUMの会主催の「第10回大学トップマネジメント研修エクステンション～各大学の事例から学ぶ～」が本学にて開催され、内閣府の上山隆大本府参与のほか、全国の大学幹部らが参加しました。本学からは研究大学に向けた大学法人経営改革や病院改革、J-PEAKSによる研究基盤整備の取り組みなどを紹介し、活発な意見交換が行われました。本学は、今後も、J-PEAKSを活用し、技術職員の高度化、研究機器の共用化などをさらに推進し、新たな研究・イノベーション創出から社会を変革します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15493.html

TOPICS
16令和8年版「科学技術・イノベーション白書」において、
岡山大学のJ-PEAKSの取り組みが紹介

本学のJ-PEAKSの取り組みが、文部科学省の令和8年版「科学技術・イノベーション白書」において、「科学の再興」を先導する具体的な事例として紹介されました。白書では、「岡山大学長期ビジョン2050」の実現に向け、本学が実施している「高等先鋭研究院システム」や「岡山大学研究開発マネジメント人材認定制度」などの特徴的な取り組みが取り上げられています。今後もJ-PEAKSを活用しながら、研究のさらなる展開と、地域社会、産業界との連携強化を一層進め、科学技術・イノベーションによる社会課題の解決に向けた取り組みを加速します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15497.html

TOPICS
17窒素を含む環状有機化合物を細胞内で構築可能な新
たな光反応を開発～薬の効果を光制御するツールとし
ての応用に期待～

本学と東北大学の共同研究グループは、生体条件下でもアミジニルラジカル(反応性の高い窒素含有分子)を発生させ、医薬品にも見られる複雑な構造であるアミノフェナントリジン骨格を構築する新たな光化学反応の開発に成功しました。本光反応は細胞内でも進行することから、生物活性分子を必要な場所と時間で直接合成する「その場合合成」による生命現象の時空間的制御や、副作用の少ない治療法の開発への応用が期待されます。本学では、今後も、Well-being社会の実現に向けた研究活動を推進します。

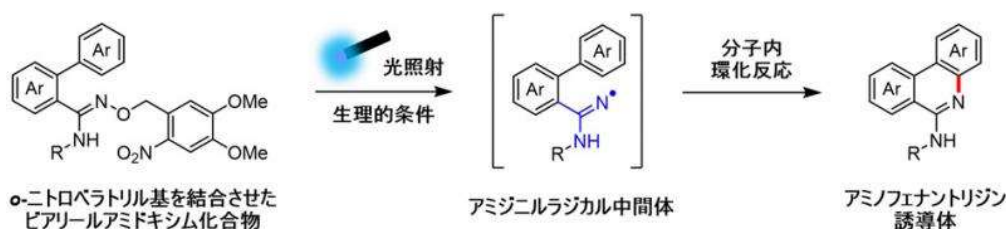


図1 o-ニトロベンジルオキシムからアミノフェナントリジンを与える光誘起型分子内環化反応の概要

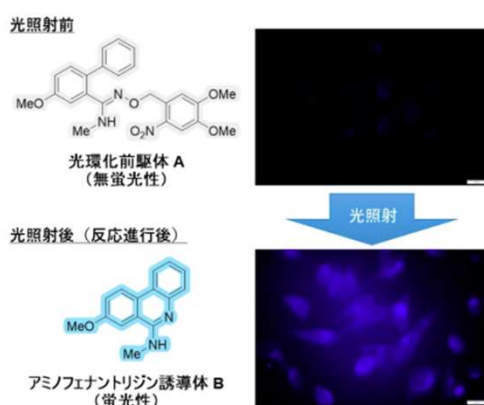


図2 新規光化学反応による蛍光性分子の細胞内構築

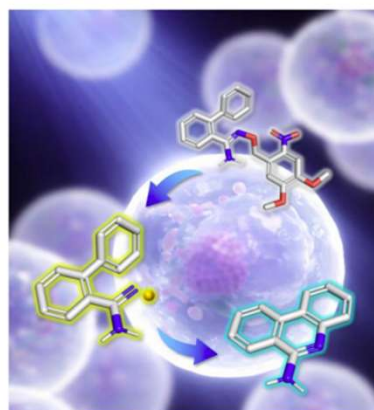


図3 細胞内光化学反応のイメージ

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1566.html

TOPICS
18クライオ電子線トモグラフィーによる細胞内タンパク質の
in situ構造解析法のハンズオントレーニング講習会を
開催

本学の高等先鋭研究院である異分野基礎科学研究所国際構造生物学研究センター(ICSB)は、「クライオ電子線トモグラフィーによる細胞内タンパク質のin situ構造解析法」をテーマとしたハンズオントレーニング講習会を開催しました。講習会では講演と実技実習を通じて、解析手法やソフトウェアの活用方法を学び、活発な質疑応答や意見交換が行われました。J-PEAKSの取り組みのもと、今後も学内外に研究設備を広く開放し、構造生物学をはじめとした様々な分野で「可視化」による研究推進と研究基盤の強化を支援します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15500.html

TOPICS
19J-PEAKSを活用した大学改革へ向けて～那須学長と
教職員のワークショップを開始！～

本学は、J-PEAKSを活用した大学改革に向けて、若手研究者や事務職員と学長によるワークショップを開始しました。初回は「研究時間確保のために今できること、足りないことについて」をテーマに開催し、教員の機能分化や事務手続きの簡略化などについて議論しました。研究者と事務職員が意見を共有し、学長との対話を通じて理解を深めました。今後もJ-PEAKSの取り組みを推進する中で、“常識”にとらわれない大胆な大学経営改革を行い、全学をあげて岡山大学長期ビジョン2050の実現を目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15503.html

TOPICS
20

三重大学とのIR等にかかる意見交換会を実施



本学は三重大学と、IRの活用方法やJ-PEAKSで推進している人事制度等に関する意見交換会を開催しました。研究IRの推進体制やデータに基づく意思決定、研究時間確保の方策、研究グループの成果評価、URAの立ち位置やインセンティブ、キャリアパスなどについて活発な議論を行いました。

本学は、今後もJ-PEAKSを活用し、他機関との連携を進め、ナレッジワーカーの育成と研究支援体制の充実を図り、地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学の実現を目指します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15499.html

TOPICS
21

岡山大学価値創造ナレッジマネジメントオフィス「職員人事戦略ユニット」が始動



本学は、大学経営および組織力の更なる向上を図るため、岡山大学価値創造ナレッジマネジメントオフィスに職員人事戦略ユニットを設置しました。本ユニットでは、職員の高度化やキャリアパスの多様化、専門性を生かした人材活用、教員の研究時間確保に資する人事施策等について、全学的な視点から企画・立案を進めています。本学は、地域中核・特色ある研究大学として、部局の枠を越えた全学的な視点から、高度人材の戦略的配置や育成策の具体化を進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15506.html

TOPICS
22

学術研究院環境生命自然科学学域の山崎慎一准教授が「繊維学会賞」を受賞

本学学術研究院環境生命自然科学学域の山崎慎一准教授が、第52回（令和7年度）繊維学会賞を受賞しました。山崎准教授は「分子トポロジーを基軸とした高分子結晶化メカニズムの解明と繊維材料への展開」で受賞が決定しました。本賞は、繊維科学分野で独創的かつ優秀な研究を行い、今後の発展が期待される研究者に授与されるもので、高分子結晶化における絡み合いの役割や分子鎖形態が結晶化に及ぼす影響の解明などの業績が評価されました。今後も、J-PEAKSを活用し、研究者がさらに研究に専念できる環境を整備します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15451.html

TOPICS
23株式会社リバネスと連携・協力に関する協定を締結
～瀬戸内と世界をつなぎ、スタートアップ創出を加速～

本学は株式会社リバネスと、本学の研究成果の社会実装およびスタートアップ創出を推進するため、連携・協力に関する協定を締結しました。本協定は両者が連携・協力し、研究シーズや人材を地域企業、投資家、国内外のパートナーと結び付け、研究成果を起点としたスタートアップ創出を加速させることを目的としています。本学は、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、岡山・瀬戸内から新たなスタートアップと産業価値を生み出し、地域の知と技術を世界へ展開する取り組みを一層推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15466.html

TOPICS
24

【DXハイスクール】岡山県立岡山芳泉高等学校で3Dプリンタ講座を開催～高度な3D CAD「Fusion」と3Dプリンタ3台を駆使した自律的なものづくり探究を支援～



本学は、岡山県立岡山芳泉高等学校の「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」を支援する高大連携事業として、生徒35人を対象に「3Dプリンタ講座(基礎編)」を開催しました。より高度で実用的な3D CADソフトウェア「Fusion(Autodesk Fusion)」と3台の3Dプリンタを活用し、ラピッドプロトタイピングの基礎技術を習得しました。本学は、今後も、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、DXハイスクール活動への伴走支援を通じて、未来の科学技術を担う次世代デジタル人材の育成を積極的に推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15467.html

TOPICS
25

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長らとの意見交換等を実施

本学は、文部科学省科学技術・学術政策局の奥篤史人材政策課長(当時)らを迎え、「今後の科学技術人材政策の方向性(最終まとめ)」に向けた方針や具体的取り組みについて、研究者雇用、博士課程学生のRA雇用の在り方、女性研究者の活躍促進などについて意見交換を行いました。本学は、今後も、J-PEAKSを活用し、研究開発マネジメント人材(URA、事務職員、技術職員等)の高度化、研究機器の共用化などをより一層進め、新たな研究・イノベーション創出から社会を変革します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15475.html

TOPICS
26

三朝国際学生インターンシッププログラム(MISIP)を開催



本学高等先鋭研究院の惑星物質研究所は、2026年度「三朝国際学生インターンシッププログラム(MISIP)」を開催しました。本プログラムは次世代若手研究者の育成と国際的なネットワーク構築を目的として2005年度から実施しており、今年度は計8か国から、100人を超える応募者から選抜された12人の学生が参加しています。参加学生は充実した研究環境ときめ細やかな指導体制のもと、研究所教員が提案する最先端の研究プロジェクトに取り組みます。高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所の今後の活動にご期待ください。

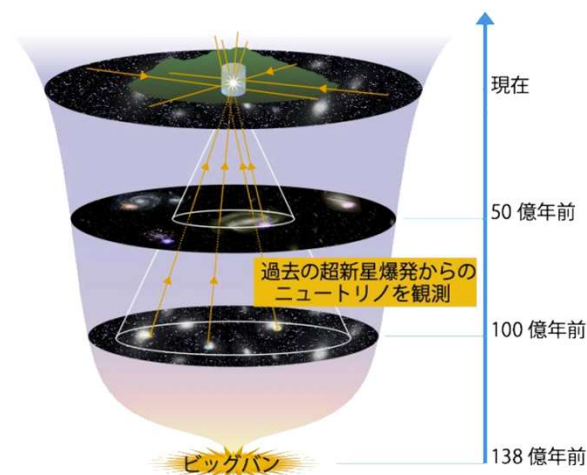
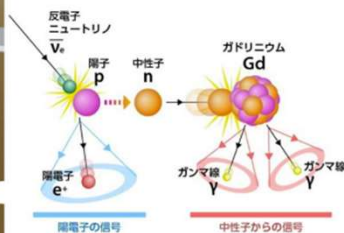
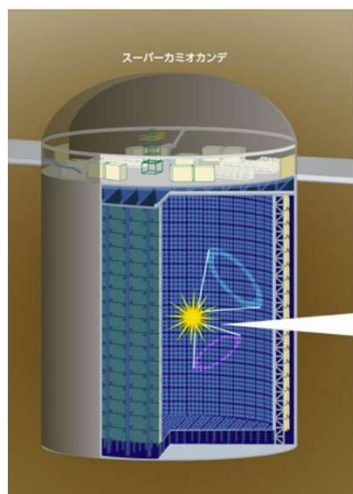
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15485.html

TOPICS

27

スーパーカミオカンデが超新星背景ニュートリノの兆候を捉える～宇宙の歴史に刻まれた「かすかなささやき」の手がかり～

スーパーカミオカンデ国際共同研究グループは、約5000日分に及ぶ観測データの詳細解析により、宇宙の歴史上で起きた重力崩壊型超新星爆発に由来する「超新星背景ニュートリノ(Diffuse Supernova Neutrino Background, DSNB)」の兆候を世界で初めて捉えました。本学の小汐由介研究教授のグループもこの成果導出に中心的な役割を果たしました。本学は、今後も、最重点研究分野として設定している惑星科学・宇宙物理分野の研究を力強く推進します。



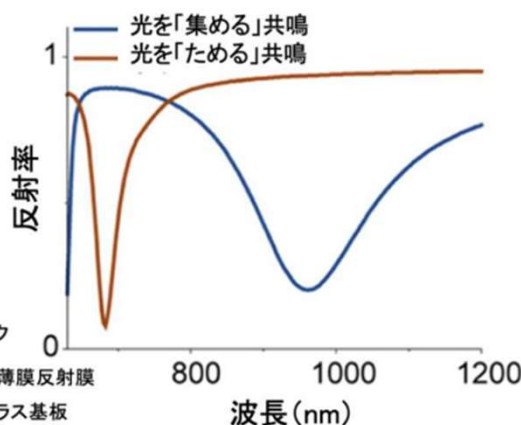
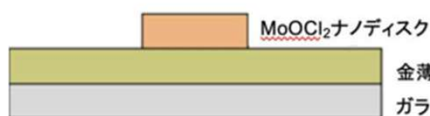
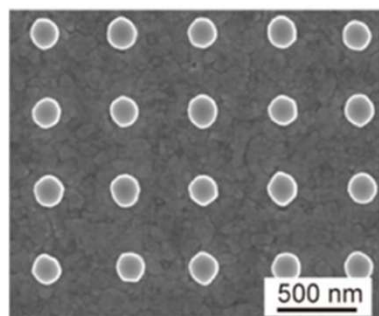
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1567.html

TOPICS

28

光を「集める」「ためる」二つの働きを一つのナノ構造で実現～高感度センサーや光情報処理デバイスへの応用に期待～

本学高等先鋭研究院の異分野基礎科学研究所の三澤弘明教授と北海道大学などの国際共同研究グループは、 MoOCl_2 という特殊な二次元材料を用い、一つのナノ構造の中で、光を強く「集める」働きと、特定の色の光を効率よく「ためる」働きを同時に実現しました。本研究では、この性質を利用して MoOCl_2 を円盤状のナノ構造に加工し、さらに金薄膜を反射膜として組み合わせることで、光を「ためる」働きを効果的に高めました。今後も、植物・光エネルギー開発拠点の先鋭研究者である三澤教授の研究活動にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1568.html

TOPICS
29

「AIが読める」から「AIを信頼できる」へ～国際会議「XART 2026」でJ-PEAKSの取組と次世代の信頼基盤を発信～



本学の野上保之教授と笹埜健斗特定教授は、北海道大学で開催された国際会議「XART 2026」で、安全なデータ共有やAI・サイバーセキュリティ、地域共創、社会的インパクトの創出といったJ-PEAKSの取り組みを紹介し、AI時代の企業報告を支える信頼基盤として、「Data Trust」、「AI Security」、「Social Impact」の三つの層からなる枠組みを提示しました。本学は、今後もAIが企業報告を安全かつ信頼できる形で活用するための研究と社会実装を強化推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15508.html

TOPICS
30

千葉大学・岡山大学事務職員等による意見交換会を開催～大学経営を支える人材育成と研究支援体制の高度化について議論～

本学は千葉大学と事務職員・URAによる意見交換会を開催。研究力強化や大学経営改革を支える事務職員・URAの役割、人材育成の在り方、研究支援体制の高度化について意見交換を行い、本学の「大学院修学支援制度」やJ-PEAKSを契機とした組織改革、部局横断的な連携体制の構築などを紹介しました。大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、教員だけでなく事務職員やURAが専門性を発揮しながら大学運営に参画していくことの重要性を再確認しました。今後も、研究支援体制の強化や人材育成の充実を図るとともに、大学間連携を一層深めます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15509.html

TOPICS
31

岡山大学と広島大学が技術職員の相互受入研修を実施～研究基盤を支える技術人材の高度化と連携強化を推進～

本学と広島大学は、研究基盤を支える技術職員の高度化と両機関の相互理解の促進を目的に、技術職員の相互受入研修を実施しました。両大学の技術職員が約1週間にわたり相手機関で実務研修を行い、研究設備の運用や学生実験支援、加工技術などの知識・技術を共有しました。研修を通じて技術力向上と人的ネットワークの強化が図られ、今後の継続的な連携や共同事業推進の基盤構築につながる成果となりました。本学は、今後も他大学と連携し、知から新しい価値を創造するナレッジワーカーの育成を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15512.html

TOPICS

32

愛媛大学と連携協定を締結～両大学の強みを結集し、瀬戸内から世界につながるスタートアップ・エコシステムの形成へ～



本学は、愛媛大学と「アントレプレナーシップ人材育成及びスタートアップ創出等の推進に関する連携協定」を締結しました。本協定は、本学や愛媛大学などが参画する、内閣府の「NEXTグローバル拠点都市」に選定された「瀬戸内スタートアップコンソーシアム」の取り組みを推進するものです。同コンソーシアムは、愛媛県と岡山市を中心に、瀬戸内地域を一つの広域的なフィールドとして捉え、自治体、大学、企業、金融機関、支援機関などが連携し、スタートアップの創出や地域産業の活性化を目指しています。

まず、スタートアップ支援や人材育成を個々の大学や地域の中だけで完結させるのではなく、大学、自治体、企業、金融機関、支援機関などが強みを持ち寄り、広域的に連携することの重要です。本学は今後も、愛媛大学をはじめとする地域の多様な機関と連携し、瀬戸内地域の強みを結集することで、新たな価値やイノベーションを創出し、その成果や人材を世界へとつなげるスタートアップ・エコシステムの形成を推進します。開かれた地域中核・特色ある研究大学：岡山大学と愛媛大学の取り組みに、ぜひご期待ください！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15530.html

イチオシの研究設備

ガスクロマトグラフ三連四重極質量分析計 JMS-TQ4000GC UltraQuad TQ

2026年5月14日、本学研究・イノベーション共創機構附属自然生命科学研究支援センターに、SX (Shared Transformation) プラットフォームによる国内第1号機として、日本電子社製、トリプル四重極型ガスクロマトグラフ質量分析装置が導入されました。(分析計測・極低温部門 分析計測分野 (<https://dia.kikibun.okayama-u.ac.jp/>)、ゲノム・プロテオーム解析部門 (https://www.okayama-u.ac.jp/user/grcweb/dgpweb/GRC_home-J.html))

SXプラットフォームは、従来の「買う」から「借りる」への選択肢を拡大しつつ、設置費や保守費、修理費、撤去費の4経費を含めた形で利用できる、新研究機器プラットフォームです。



本装置はシングルモードによるスキャン選択イオンモニタリング (SIM) 測定のほか、高速・高感度な選択反応モニタリング (SRM) 測定による微量検出・定量分析にも威力を発揮する GC-MS/MS 分析装置です。6月5日から本格稼働し、9月に利用者向け講習会も予定しています。

食品や環境、工学、医薬などの幅広い分野で低分子化合物の同定に必須な汎用性のある機器です。他大学・研究機関や企業からも広く利用者を募っております。ぜひご活用ください。

【管理者】

中野知佑 (分析計測分野、総合技術部)

樹下成信 (ゲノム・プロテオーム解析部門)

本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1439>

SXプラットフォーム：sxplatform.jp 参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15460.html

